

平成29年度 前期日程 小論文

出題の意図と解答の傾向

問題1

【出題の意図】

問題文はジグムント・バウマン＝デイヴィッド・ライアン（訳）伊藤茂『私たちが、すすんで監視し、監視される、この世界についてーリキッド・サーベイランスをめぐる7章ー』（青土社、2013年）から出題した。筆者は、ドローンとソーシャルメディアによってプライバシーが流出していることを指摘し、監視の方法と監視される側の意識の変容を説明している。小論文のテーマとしてプライバシーや監視社会が取り上げられることはままあるが、受験生にとっても身近な新しいテクノロジーによって変化しつつある現代の監視社会と、どう向き合おうとするかを問いかけた。

設問1は要約問題である。問題文の広範囲に示されているドローンとソーシャルメディアの説明の中から、プライバシーの観点に絞り、述べるべき点の優劣をつけながら要約することが解答のポイントである。文章を正確に読み取る力、設問に応じて重要な点を見つけ出す力、字数制限の中での的確かつ簡潔に表現する力が試されている。

設問2では、全体として筆者の伝えたかったポイントをとらえたうえで、自分の考えを理論的に表現する思考力や文章力があるかが問われている。筆者の見解に対し、受験者自身が現代の監視社会をどう分析し、理論を構成して考えを示しているかがポイントとなる。

【解答の傾向】

設問1は、おおむね正しい説明ができていた。問題文は翻訳文であり、抽象的な議論がされているやや難解な文章であったが、受験生が内容の理解に努める姿勢が感じられた。ただ、設問においてプライバシーの観点から重要な点をまとめることが求められているにもかかわらず、ドローンと戦争の関係を強調する答案も多く見られた。また、ソーシャルメディアの特性について「少なくとも名目的には…提示されています」（2頁17～19行目）のみを指摘し、続く「にもかかわらず…」以下の内容を見落としている答案が少なからずあった。

設問2の「筆者の見解」は、おおむね上記の要点に触れる答案が多かったが、本文の表現をそのまま長く抜き出しているために「あなたの考え」に充てる文字数が極端に少なくなっている答案も見られた。設問2では「筆者の見解」と「あなたの考え」の双方を解答することが求められているにもかかわらず、いずれかしか述べていない答案も見られた。

設問2の「あなたの考え」では、監視社会を好意的にとらえる見解と否定的な見解のいずれかで立論する答案がほとんどを占めるなか、筆者の分析そのものを批判的ま

たは同調的に論ずるものもあった。論述の内容としては、ソーシャルメディアをめぐる身近な問題を取り上げているものが多く、日頃からの社会に対する問題意識を反映した答案が多かった。監視の利点（犯罪抑止や検挙率の向上など）や問題点（プライバシー侵害により自由な思想や行動が制約されかねないなど）を挙げ、知識を踏まえて論じる答案もあった。解決策を提示しようとする答案はプライバシー保護のための取り組みを政府や教育機関に求めるものが多数見られた。筆者の分析をもとに、社会的承認を得る方法をソーシャルメディア以外の場に求めるべきとする見解もあった。

賛成・反対という立論形式にとらわれず、自らの考えを深めたうえで理論立てて論じることが重要であるが、自分の考えと筆者の見解を混同し、問題文の表現をそのままのぞるだけの答案や、ドローンやソーシャルメディアの効用の説明に終始しているものもあった。

最後に、設問 1 および設問 2 に共通する解答の傾向として、誤字・脱字、文末処理（「ですます」調と「である」調）の混在、主述の不一致、体言止め、不適切な接続詞、改行や字下げによる段落体裁を整えていないもの、同じ表現の繰り返しなどがみられた。こうした形式を満たした作文をするのは基本であり、完成した文章を見直して単純なケアレスミスをなくすように心がけてほしい。

問題 2

【出題の意図】

問題 2 は、日本の食料自給率に関する資料をもとに出題した。食事は生命を維持するために欠かすことのできない行為であり、私たちが暮らす現代日本では、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、レストランなどで、気軽に好きな食べ物を購入することができる。飽食の時代と呼ばれる今日、私たちの食に特に大きな問題はないようにも思える。しかし、「その食べ物の素材となる食材はどこで生産されたのだろうか」という疑問を抱いたとき、必ずしも楽観視することのできない日本の食の現状も浮かび上がってくる。そこで、本問題では、図表に示されるデータから日本の食料自給の特徴を正確に把握することができるか、また、そうした状況をふまえて今後どのような対応が必要なのかの 2 点を受験生に問うた。採点の際には、図表の内容を読み取る力の有無だけでなく、情報を上手く整理する力やデータにもとづいて議論を組み立てる力の有無も重視した。

設問 1 では、資料をもとにカロリーベースと生産額ベースの違いに着目して、日本の食料自給率の特徴を説明することを求めた。解答のポイントは、与えられた図表から、①日本の食糧自給率がカロリーベース、生産額ベースのいずれにおいても低下傾向にあり、②他の先進諸国と比較した場合、生産額ベースではそれほど見劣りしないカロリーベースは目立って低いこと、③その背景に食品ごとの両自給率の違いが影響していることの 3 点を正確に読み取り、それらの情報を整理して設問に対して適切な

形式で記述することである。

設問 2 では、資料をもとに日本の食料自給率が低下している理由を説明したうえで、今後、どのような対策が必要かを論じるよう求めた。解答のポイントは、図表から①1日あたりの供給熱量における米の割合低下と畜産物・油脂類の増加、②それに応じた米の消費量減少と牛乳・乳製品類の消費量の伸長、③小麦や畜産物を利用するメニューの自給率に関する特性などを読み取り、設問 1 で得られた情報とあわせて日本の食糧自給率低下の理由をデータから説明したうえで、その理由に対し整合的な対策を示すことである。

【解答の傾向】

設問 1 について、両自給率の推移や他の先進諸国と比較した際の特徴などを指摘できているものが多く、データの読み取りは概ねできていた。ただし、やや複雑な図表 2 については、表面的な数値紹介にとどまりその意味まで述べられていない解答や、誤った解釈を述べている解答も散見された。なかには、カロリーベース自給率と生産額ベース自給率の意味そのものを理解できていないと思われるものもあった。しかし、情報を整理して記述することができている答案、具体的には、図表から読み取れる内容を列記しただけの答案が目立った。また、日本の食料自給率の特徴や、カロリーベースと生産額ベースの違いに全く触れない解答も散見された。質問に即した形（たとえば、「したがって、日本の食料自給率の特徴は…である」のような）で答えるよう心掛けるべきだろう。なお、少数だが、図表の内容に全く触れない解答や、指示されていない図表にまで言及する解答があった。

設問 2 については、図表から米の消費減少や食生活の変化などを指摘するものが多く、食料自給率低下の説明は概ねできていた。ただし、都市化や自然災害、TPP の影響など、全く図表を無視した解答や、食料自給率の低下を輸入の増加で説明するという同語反復に近い解答もあった。時事問題の知識を答案に反映させることを優先するあまり、図表に示されるデータが蔑ろにされてしまったのかもしれない。なお、こうした知識にもとづく記述には多くに誤りがあった。対策については、生産関連では「農業への補助拡大」や「関税の強化」、消費関連では「日本食（和食）の推進」や「地産地消」などのキーワードが目立った。なかには社会経済状況に対する関心が見て取れる答案もあったが、生産と消費を関係付けるような、考え抜かれた解答がほとんど見られなかったのは残念であった。なかには、食料自給率が低下している理由と全く整合性のない対策を述べている解答もあった。

最後に、設問 1 と 2 に共通して見られた問題点を指摘しておく。まず、主語の欠落や不適切な接続詞の使用など、日本語作文上のミスが多く見られた。また、誤字のある答案も少なくなかった。これらは、採点者に自分の考えを伝える妨げになる。注意が必要であろう。